

神奈川県の「海業」の取組み

三崎マグロの「茜身」を全面バックアップ!

「海業」とは、水産業の発展のため、漁業を核として商業、観光、教育等の分野を結び付けた複合的産業のことをいいます。

神奈川県では、経営の多角化により漁業者の所得向上を図るために、海業に取り組む地域を支援していきます。また、海業に取り組む漁業者と企業のマッチングを行うとともに、シンポジウムやセミナーを開催して海業を促進します。さらに、県内の教育機関と連携して、海業の担い手を育成するための研修を実施します。

○かながわの魚販売促進事業

「茜身」に関する取組では、神奈川県水産技術センターが、血合肉の品質を保証する「茜身取扱認証制度」運用の技術的支援等を行っています。認証を受けるための基準の1つに「研修受講」があり、その講師を水産技術センターが実施、令和7年度には、さらに茜身の扱いに関するガイドラインを作成します。健康成分セレノネインに関する機能の共同研究の結果については、データ検証等を東海大学が行う予定です。

○磯焼け対策事業

藻場の再生を加速化させることは、磯焼けした漁場の回復が図られると同時に、ブルーカーボンによるCO₂吸収効果の増大にもつながります。県では、昨年度に引き続き「早熟カジメ」の大量生産を実施し、水槽の数を増やして生産量を増やしていきます。また、藻場再生の担い手として漁業者のみでは限界があるため、

地元ダイビングショップなどの民間の協力を得ながら、藻場再生をより一層推進していきます。

○魚類等養殖技術開発事業

昨年度は、水産技術センター前の小型生簀で、マサバ養殖試験を実施してきました。今年度は養殖業に付加価値をつけるために、マサバに抗酸化作用の高いマグロ血合肉を餌として与える試験を実施します。また、昨年12月から今年5月(予定)にかけてサーモン養殖試験も実施中です。さらに、沿岸域における養殖適地選定のため、漁場環境(流向流速、水温、波高)調査も実施、養殖に必要な資材の購入など、地元協議会と協働して試験養殖を行っていきます。



■ 石川たくみ プロフィール



昭和48年(1973年)三浦市外海町生まれ、初声町在住。徳風幼稚園、三崎小・三崎中学校、追浜高校卒業。早稲田大学教育学部へ進学・卒業後、凸版印刷株式会社、有限会社丸石製作所を経て、2011年(公社)三浦青年会議所第50代理事長に。2013年に三浦市議会議員(一期)、2015年には神奈川県議会議員に初当選。現在、総務政策常任委員会 委員長。

- ①「拉致被害者全員の帰国を求める街頭署名活動」に毎年参加。
- ②三浦市で移住生活する、元フィギュアスケート選手の高橋成美さんと。
- ③県内二つしかないユネスコ無形文化遺産に登録の「チャッキラコ」
- ④ロンドン五輪柔道女子金メダリスト松本薫さんに護身術を教わる



神奈川県議会議員 石川たくみ活動報告

かけはし

神奈川県議会 令和7年度当初予算を可決

令和7年3月25日、神奈川県議会 第一回定期会が閉会しました。

本会議におきまして令和7年度神奈川県一般会計予算2兆2,158億円ほか総額約4兆6,637億円等来年度関連議案が可決承認されました。子ども子育て施策や住宅の耐震化補助拡充等の災害対策、防犯カメラ等の防犯対策、共生社会実現や脱炭素社会への取り組み等の予算が盛り込まれました。

総務政策常任委員会 委員長として

総額4兆6,637億円の予算議案を審議



私は、今期「総務政策常任委員会」委員長を務めさせて頂いております。8つの常任委員会のうちでも筆頭委員会といわれており、県行政やヘルスケア・ニューフロンティアの総合的企画、調整・推進、広聴・広報、県民協働、市町村その他公共団体の行政一般、基地、統計、組織・職員、予算、県税その他財務、県有財産、文書、情報化の他、政策局、総務局、会計局といった仕事について審査しています。県財政はもちろん、三浦半島魅力最大化プロジェクトやかながわシープロジェクト、ブルーカーボン促進など、三浦市における地方創生や自治振興の事業にも資する重要な職務です。すべては神奈川のため、三浦市のために、全力で職務を全うさせて頂きます。

三浦半島における幹線道路等の整備促進について

三浦縦貫道路延伸事業も進展へ

○都市計画道路西海岸線…三浦半島地域の経済の活性化や、災害時の対応力強化に資する西海岸線の早期整備に向けて、昨年度、用地測量から着手しました。令和7年度では、埋蔵文化財調査、用地取得といった具体的な事業に取り組んでいきます。

○三浦縦貫道路Ⅱ期区間…未備区間(約2.5km)の早期整備は、初声地域の通学路の状況改善等、地域住民の悲願であります。

昨年度地形測量等実施され、今年度は、道路予備修正設計を進めていく予定です。

○県道215号(上宮田金田三崎港)…県道215号宮川橋 - 城ヶ島線区間は、道幅が狭いため、歩道設置等安全対策を実施します。今年度、用地測量を始め、事業の着手をしていく方向です。

都市計画道路・西海岸線の整備



すべては三浦のために

令和7年度 当初予算案

(一般会計)

2兆2,158億円

一般会計	特別会計(15会計)	企業会計(6会計)	総計
2兆2,158億円 (前年度比105.3%)	2兆2,833億円 (前年度比101.6%)	1,645億円 (前年度比102.6%)	= 4兆6,637億円 (前年度比103.4%)

あ らゆる分野でデジタル活用を進め、子ども・子育て支援や教員の働き方改革、障がい児・者の生活を支えるサービスの充実強化に取り組むほか、脱炭素社会や「災害に強いかながわ」の現実に向けた取り組みを進めていきます。

予算案の内容について
詳しくはこち

子ども・子育て支援の推進 教員の働き方改革の加速化 2050年脱炭素社会の実現

1,867億2,578万円

- 私立高等学校等の授業料実質無償化の対象を拡充・年収約700万円未満世帯から約750万円未満世帯へ
- 高等学校奨学金の所得制限の撤廃
- 支援を必要とする子ども・家庭への取り組み



共生社会の実現

977億7,235万円

- 「福祉を科学する」取り組みの推進
・やさしさや思いやりのある支援の効果を科学的に分析してデータ化するなど、再現性のある当事者目線に立った支援への転換
- 地方独立行政法人神奈川県立福祉機構の設立に向けた取り組み
- 障がい者の多様な働き方の推進



「災害に強いかながわ」の実現

1,587億4,093万円

(うち令和6年度2月補正予算額1億円)

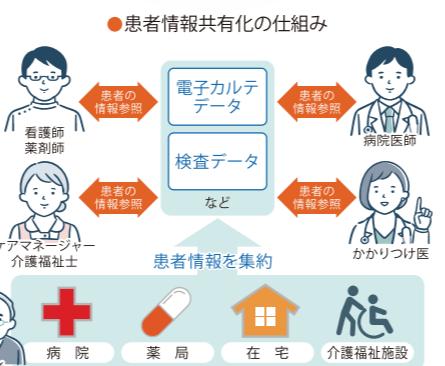
- 新たな地震防災戦略の推進
・2000年以前の耐震基準の一般住宅まで耐震化補助を拡充
- 防災ヘリコプターの導入(チャーター)など
- 水防災戦略の推進
・トイレカー10台導入



デジタルの力の活用による やさしい社会の実現

334億6,024万円

- かながわ子育てパーソナルサポートの運用
- 医療DXの推進
・救急医療相談(#7119)にLINE機能等を追加
- 患者情報共有化の推進
(令和7年度は横須賀・三浦地域等で実施)



令和7年度当初予算 三浦半島活性化

三浦半島稼ぐ力創出事業費

ウインドサーフィンワールドカップ開催を支援

三浦半島地域の活性化を推進するため、起業に向けた支援や横須賀市三浦市・民間と連携したウインドサーフィンワールドカップを開催します。また、三浦半島地域の多様な事業者が地域課題解決に向けて連携する場【三浦半島みらいミーティング】の中で、新たに事業者が外部から事業拡大のためのノウハウを始めとした有用なリソースを獲得する機会等を創出することで、事業者による地域活性化事業を促進します。



三浦半島新しい人の流れ創出事業

三浦半島に「移住コンシェルジュ」配置

東京都内からの転入者を増やすため、新たに現地での移住相談や案内に対応する移住コンシェルジュを配置するとともに、若者を対象とした交流・体験プログラム等を実施し、関係人口の創出や移住・定住の促進を図ります。



地域まるごとホテル@三浦半島

三崎港エリアが採択受ける

地域まるごとホテル事業は、空き家などを活用して宿泊施設を営む事業者や地元の飲食店、アクティビティを提供する観光事業者などが一体となって滞在型の観光客を呼び込む、「アルベルゴ・ディフィーズ」というイタリアの地域活性化手法を参考にした取組みです。

三浦半島地域における観光客の滞在時間の延長や平均消費額を増やすため、新たに宿泊予約にもつながるウェブサイトによる情報発信や、来訪前後の交流会等、利用促進に向けた観光客誘客事業等を実施するとともに、引き続き、「地域まるごとホテル@三浦半島」事業に参画する事業者が行う宿泊施設の改修経費等に対して補助します。



ふるさとワーキングホリデー

県内初「ふるさとワーキングホリデー」活用

三浦半島地域では、20代を中心とする若い世代での転出超過の傾向が続います。そこで、若い人を呼び込むことを目的に都市部の若い人が、一定期間地域に滞在し、働いて収入を得ながら地域住民との交流や学びを通じて暮らしを体験できるプログラムを、総務省が広報の支援を行う「ふるさとワーキングホリデー」を活用して、県内で初めて実施します。

